
熱田区の活動事例



熱田区

高蔵学区体育祭



【高蔵学区】

■世帯数：4,243 世帯

■人 □：8,144 人

■面 積：1.090 km²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 高蔵小学校の校庭を会場に、「高蔵学区体育祭」を開催。参加者数は約 650 人。
- ・ 親子による二人三脚、幼児参加の徒競走、高齢者のスプーン競争、世代に関係なく参加できるホールインワンゲームなど、全ての世代が楽しく参加できるように、競技内容を工夫している。
- ・ 多くの方に参加してもらうため、和太鼓や抽選会などのアトラクションも行っている。

【住民への PR 方法】

チラシの回覧、子どもが描いたポスターを掲示板に掲示

【アピールポイント】

各種団体が協力的で団体間の交流を深めるきっかけになっている。

2 きっかけ、背景

全ての世代が参加できる行事がなかったため、気軽に参加でき世代交流できる行事として、また住民の健康づくりの一環として体育祭を企画した。

3 運営体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、民生委員児童委員、保健委員、消防団員、女性会、子ども会、老人クラブ、スポーツ推進委員 計約 100 人

(2) 他団体との協力

民生委員児童委員、保健委員、消防団員、女性会、老人クラブ、各町内体育委員

4 運営スケジュール

H23 年 5 月 実行委員会を立ち上げ、企画案の検討を開始

6 月～8 月 企画案の作成

9 月 準備、チラシの回覧、ポスターの掲示

10 月 体育祭の開催

第 7 回 体 育 祭 プログラム

期日 平成23年10月22日(日)
雨天の場合は11月5日(日)へ繰延
(雨天雨天の場合は中止)
主催 高尾学区連合会

時間	競技種目	出場対象者
9:00	集合	
9:30	開会式・準備体操	
10:00	和太鼓	
【午 前 の 部】		
1 10:20	二人三脚	親子
2 10:40	徒競走	幼児・自由参加
3 10:50	ハン食い競走	低学年の親子・高学年・大人
4 11:15	大玉競争	子供・大人
5 11:30	障害物競走	低・高学年・大人
12:00	昼 食	
【午 後 の 部】		
6 12:30	ホールインワンゲーム	自由参 加
7 13:00	みんなで踊ろう	自由参 加
8 13:15	玉入れ	子供・シニア
9 13:35	借り物競走	子供・大人
10 14:00	スプーン競走	シニア
11 14:15	綱引き	子供・大人
12 14:35	対抗リレー	低・高学年・大人
15:00	閉会式・整理体操・抽選会	

(幼児・未就学児 低学年・1～3年 高学年・4～6年 大人・中学生以上 シニア・60才以上)

※ 先着300名様に参加賞があります。
※ お弁当 飲み物は各自で用意ください。
※ 競技参加は当来までなので早めにご来場ください。
※ 競技開始時刻は前後しますので早めに集合してください。
※ 自転車は花町公園にて、正門からお入りください。

5 成果と課題

(1) 成果・効果

各種団体間で交流が深まり、他の行事でも協力を得られるようになった。

(2) 苦労した点

競技への参加は事前申込制だが、当日参加希望者もあり対応が難しい。

(3) 今後の課題・展望

担い手の世代交代。実行委員のなり手がいない。

(4) メッセージ・アドバイス

全世代が気軽に参加できる行事を企画する。

仲良しグラウンドゴルフ大会



【旗屋学区】

■世帯数：3,245 世帯

■人 □：7,300 人

■面 積：1.135 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 旗屋学区体育協会の主催行事として、年3回（春（4月）・夏（8月）・秋（10月））「仲良しグラウンドゴルフ大会」を開催。会場は神宮東公園、旗屋小学校、高蔵公園など。参加者数は約 25 人。
- ・ 町内対抗で、老若男女誰もが楽しめる競技として団体戦、個人戦を実施。
- ・ 大会に向けて、週3回練習をしている。

【住民へのPR方法】

学区広報誌により大会の日程を広報

【アピールポイント】

楽しむことをモットーに、マナーを大切に活動している。

2 きっかけ、背景

熱田区主催のグラウンドゴルフ講習会に参加したところ、高齢者も参加できるスポーツだったため、旗屋学区においても大会を企画した。各町内から参加者を得ている。

3 運営体制

運営メンバー

スポーツ推進委員 約 25 人

4 運営スケジュール

週3回練習実施

4月	学区広報紙により大会日程の周知 大会の1ヵ月前に賞品の選定、学区だ よりの原稿作成
----	---

4月 春の大会を実施

8月 夏の大会を実施

10月 秋の大会を実施

5 成果と課題

(1) 成果・効果

誰もが気軽に参加できるスポーツであり、参加者の交流が深まった。

(2) 苦勞した点

設立当初は、プレー場所の確保が難しかった。

(3) 今後の課題・展望

会員数を増やしていきたい。

旗屋学区だより

年々・年増は火の用心!

今年も昨年同様、例年より早く火災が多発しています。火災の発生は、火災保険の加入が義務化されています。火災保険に加入していない場合は、火災が発生した場合、火災保険の加入が義務化されています。火災保険に加入していない場合は、火災が発生した場合、火災保険の加入が義務化されています。

ごみ出しチェック

毎年夏になるとごみ出しのチェックが実施されます。ごみ出しのチェックは、ごみ出しのルールを守ることが大切です。ごみ出しのルールは、ごみ出しのルールを守ることが大切です。ごみ出しのルールは、ごみ出しのルールを守ることが大切です。

交通安全教室

交通安全教室は、交通安全の意識を高めるための教室です。交通安全の意識を高めるためには、交通安全の意識を高めることが大切です。交通安全の意識を高めるためには、交通安全の意識を高めることが大切です。

12月31日～1月2日のごみ出し

12月31日～1月2日のごみ出しは、ごみ出しのルールを守ることが大切です。ごみ出しのルールは、ごみ出しのルールを守ることが大切です。ごみ出しのルールは、ごみ出しのルールを守ることが大切です。

消防団員が家の安全を確認

消防団員が家の安全を確認することは、家の安全を確認することが大切です。家の安全を確認することは、家の安全を確認することが大切です。家の安全を確認することは、家の安全を確認することが大切です。

グラウンドゴルフの町内対抗戦

グラウンドゴルフの町内対抗戦は、グラウンドゴルフの町内対抗戦です。グラウンドゴルフの町内対抗戦は、グラウンドゴルフの町内対抗戦です。グラウンドゴルフの町内対抗戦は、グラウンドゴルフの町内対抗戦です。

成人式のご案内

成人式のご案内は、成人式のご案内です。成人式のご案内は、成人式のご案内です。成人式のご案内は、成人式のご案内です。

第17旗屋地区グラウンドゴルフ選手権大会

第17旗屋地区グラウンドゴルフ選手権大会は、第17旗屋地区グラウンドゴルフ選手権大会です。第17旗屋地区グラウンドゴルフ選手権大会は、第17旗屋地区グラウンドゴルフ選手権大会です。第17旗屋地区グラウンドゴルフ選手権大会は、第17旗屋地区グラウンドゴルフ選手権大会です。

旗屋小学校だより

旗屋小学校だよりは、旗屋小学校だよりです。旗屋小学校だよりは、旗屋小学校だよりです。旗屋小学校だよりは、旗屋小学校だよりです。

旗屋地区グラウンドゴルフ選手権大会

旗屋地区グラウンドゴルフ選手権大会は、旗屋地区グラウンドゴルフ選手権大会です。旗屋地区グラウンドゴルフ選手権大会は、旗屋地区グラウンドゴルフ選手権大会です。旗屋地区グラウンドゴルフ選手権大会は、旗屋地区グラウンドゴルフ選手権大会です。

**第17回熱田区グラウンド
ゴルフ選手権大会！**

竹田孝枝さん(横田中)が192人の頂上に10月23日(日)、熱田神宮公園競技場で開かれました。区内7学区の中で、旗原学区ではグラウンドゴルフ競技の普及が進んだのですが、「学区なかよしグラウンドゴルフ同好会」の皆さんが練習を重ね、技術を上げられそして、今回の個人戦でついにその仲間のお一人である竹田さんが見事に優勝されました。おめでとうございましたその打数は16ホールで34、ホールインワン2回でした。



地域の方から昔のお話を聞く会



【白鳥学区】

■世帯数：5,639 世帯

■人 口：11,682 人

■面 積：1,758 km^2

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 年に 1 回、小学 3 年生を対象に「地域の方から昔のお話を聞く会」を学校の授業の中で実施。
- ・ 昔の話は、区政協力委員、老人クラブ役員など 6 人にしてもらう。10 時 50 分～12 時 10 分の授業時間内で、6 人が別々に 15 分の話をして 4 回行う。小学生からは講師に歌や楽器の演奏を披露する。
- ・ 後日、小学校からお礼の手紙をもらう。

【住民への PR 方法】

学校の授業として教職員が児童に周知

【アピールポイント】

6 人の講師が経験に基づく具体的な話をするため、児童たちの心に印象深く残ること。

2 きっかけ、背景

白鳥学区には熱田神宮をはじめとした歴史的資産が多く残っているが、第二次世界大戦の経験や昔の生活、祭り等については、現代の子どもの親も経験していないため伝わりにくい。実体験に基づく昔の話を小学生が聞いて、昔のことを考えてもらう機会とする。

3 運営体制

運営メンバー

区政協力委員、老人クラブから毎年6人を講師として選出

4 運営スケジュール

毎年1月

- ・日程調整と講師の選出
- ・講師の依頼
- ・校長より講師への依頼文書の発送

1月～2月 「お話を聞く会」開催

はばたきプリント

3年()組 名前()

「地いきの方から昔のお話を聞く会」

1 日 時 1月30日(水) 3・4時間目

2 事 宜

10:45	はじめの会・・・3年生全いん	ブレイクーム
10:55	昔のお話を聞く会・・・ブレイクーム・3-1・3-2	
	第1回 10:50～11:05	
	第2回 11:10～11:25	
	休けい 11:25～11:35	
	第3回 11:35～11:50	
	第4回 11:55～12:10	
12:15	終わりの会・・・3年生全いん	ブレイクーム

3 お話について

こうしんの名前	お話をのいよう	場 所
1 藤田 信孝 さん	子どものあそび	ブレイクーム
2 藤田 信孝 さん	せんそうと子ども	ブレイクーム
3 寺川 智代子 さん	昔の学校	3-1
4 行蔵 利男 さん	せんそうと子ども	3-1
5 寺田 俊夫 さん	昔のおまつり	3-2
6 鈴木 幸雄 さん	せんそうと子ども	3-2

4 お話を聞くじゅん番について
(自分のはんの番号の方が1回目です。その方からじゅんに関きます)

1 回目に聞く方 () さん
2 回目に聞く方 () さん
3 回目に聞く方 () さん
4 回目に聞く方 () さん

5 成果と課題

(1) 成果・効果

昔の生活や戦争について、子どもたちの理解が深まった。

(2) 苦労した点

活動の担い手の不足。講師の都合と学校の都合がなかなか合わず、代理の講師を探すのが大変である。

(3) 今後の課題・展望

担い手の世代交代が必要であるが、67歳以下は戦後生まれとなってしまう、昔の話の担い手としてよいか課題となっている。

(4) メッセージ・アドバイス

小学校と十分な打合せを実施し、話の題名を事前に児童に周知しておくことで、児童に興味を持たせるとよい。

納涼まつり



【千年学区】

■世帯数：2,578 世帯

■人 口：6,113 人

■面 積：0.899 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 熱田区の災害避難場所として指定されている愛知機械工業(株)体育館を会場に「納涼まつり」を開催。参加者数は約 300 人。
- ・ 世代を超えて多くの人に参加できるよう、コミュニティセンターや社務所などで活動するサークルによる「サークル発表会」、「盆おどり」、「お楽しみ抽選会」の3部構成としている。
- ・ サークル発表会に小学生による演技発表を加えたことで、子どもが大勢参加し、楽しむことができた。また、災害避難場所の確認もできた。

【住民へのPR方法】

チラシの回覧、各種団体長へ周知を依頼

【アピールポイント】

学区の全団体の協力により、学区全体でまつりを盛り上げている。

2 きっかけ、背景

女性会のみで開催していたが、東日本大震災もあり、顔の見える関係をつくり、学区全体の絆づくりをするため、平成 23 年度から学区全体で行うこととした。

3 運営体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、民生委員児童委員、保健委員、消防団員、女性会、子ども会、老人クラブ、スポーツ推進委員 計約 85 人

(2) 他団体との協力

民生委員児童委員、保健委員、消防団員、女性会、老人クラブ、体育協会、子ども会

4 運営スケジュール

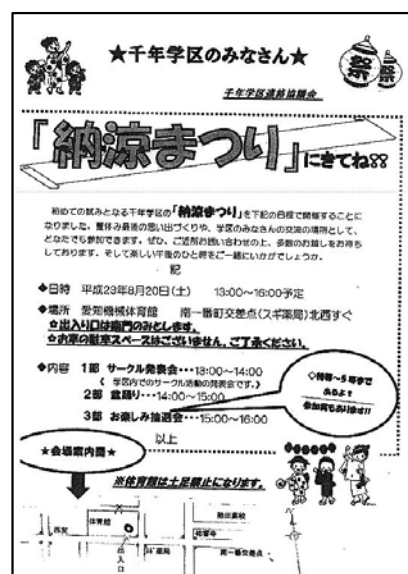
H23年5月 実行委員会を立ち上げ、企画案の検討を開始

6月～ 企画案作成、準備

7月～ チラシ回覧、学区広報紙での周知

8月20日 納涼まつり開催

9月 学区広報紙での事業報告



5 成果と課題

(1) 成果・効果

住民間の交流が深まった。学区の気運が高まり、他行事においても協力が得られるようになった。

(2) 苦労した点

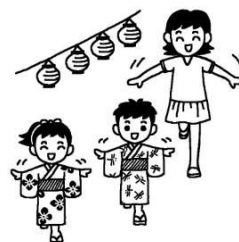
他団体との協力。初めての試みであり、企画内容や会場について何度も打合せを行った。

(3) 今後の課題・展望

活動を継続させていきたい。

(4) メッセージ・アドバイス

全世代が参加できる行事を取り入れる。



適切な規模と分かりやすい区割りによる町内会の再編成



【船方学区】

■世帯数：7,124 世帯

■人 口：15,500 人

■面 積：1,511 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 高齢化への対応、防災対策など町内会のより機能的な運営のために適切な規模の町内会、分かりやすい区割りであることが重要であるとの考えから、平成 16 年度から検討を始め、平成 22 年度から学区連絡協議会を中心にした議論を重ね、段階的に再編を実施している。
- ・ 学区内を走る国道 1 号線および江川・西町の幹線道路をまたぐ町内会の編成はしないことを原則とする。

【住民への PR 方法】

学区連絡協議会、広報紙記事、該当町内に出向いての説明

【アピールポイント】

災害時ばかりでなく高齢化等に対応するには日常的な町内会の活性化が必要である。そこで、町内会の再編によりコミュニケーションを密にして町内会・学区の活性化を図ることにした。

2 きっかけ、背景

船方学区は他の学区に比べ面積が広く人口も多く、境界のわかりにくい町内や構成世帯数が極端に少ない所、極端に多い所がある。そのため、わかりやすい境界線と適切規模の町内への再編成に取り組み、高齢化や災害・犯罪に対して共助できる町内会を目指すこととした。

3 運営体制

運営メンバー

区政協力委員、各種団体長（民生委員児童委員会、保健委員会、消防団、PTA、女性会、子ども会、体育協会、防犯協会）

4 運営スケジュール

H16 年度 町内会の再編成を学区連絡協議会において提案



H21 年度 わかりやすい区割り、適切規模の町内会への再編を再提案



H22 年度 一番西部町内会を国道1号線を境界として2つの町内会に再編



H23 年度

- ① 六番北部町内会の江川線東の世帯を四番第一と四番第二町内会へ移動することを3町内会で同意
- ② 二番第七町内会（19世帯）を二番第六町内会へ合併
- ③ 住居と町内会が一致していなかった一番南部第一町内会の2世帯が一番東部第二町内会へ移動
- ④ 一番北部第一町内会の西町線より西側の16世帯が一番西部第二町内会へ移動することに同意



H24 年度 八番南部町内会の国道1号線より北側世帯が八番北町内会へ移動し新しい町内会としてスタート

5 成果と課題

(1) 成果・効果

町内会の活性化。学区連絡協議会会員が自分の町内以外にも目を向けることができた。八番南部町内会は一部が北へ移動したことで役員的大幅変更があり、新体制の努力により町内会員が128世帯増加した。

(2) 苦労した点

住民の理解を得ること。町内会を移動することになった一部の居住者からの強い反対があった。また、学区だよりでは理解と協力をお願いしてきたが、改革を連絡協議会で進めてきたため町内会への説明不足があった。そのため、町内へ出向いて説明することで理解を得た。

(3) 今後の課題・展望

活動の継続。面積が広く、町内会への加入率が低い町内会を、世帯数も広さも適切な規模に再編成し、未加入者に町内会へ加入してもらうことで町内会の活性化を図る。

(4) メッセージ・アドバイス

町内会の活性化と隣近所の日常的な共助には、密なコミュニケーションと分かりやすい区割りがが必要です。投票所や小学生の分団登下校にも分かりやすい区割りによる適切規模の町内会再編成が有効だと分かった。

学区防犯パトロール



【野立学区】

■世帯数：3,665 世帯

■人 口：7,902 人

■面 積：0.838 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 毎月 1 回、学区内全域を防犯パトロールしている。参加者数は毎回 41 人。雨天決行で学区内を 3 コースに分け、それぞれ責任者を置いて実施する。
- ・ パトロールには、各町内へ参加者を割り当てて参加してもらっている。
- ・ 学区保健委員会で年 2 回（7 月 7 日、11 月 11 日）定期清掃活動を実施。

【住民への PR 方法】

定例会にて実施案内を配布

【アピールポイント】

犯罪の減少、防犯意識の高揚につながっている。

2 きっかけ、背景

安心・安全で快適なまちづくりと地域の安全を確保を目的に、犯罪の減少と住民の防犯意識を啓発するため、毎月学区内の防犯パトロールを実施している。

3 運営体制

(1) 運営メンバー

学区連絡協議会、各町内会 計 41 人／1 回

(2) 他団体との協力

老人会

4 運営スケジュール

通年 学区連絡協議会においてパトロール実施を案内

各町内会から参加者を募集



地区ごとに各町内の隊員により、コースごとにパトロールを実施

5 成果と課題

成果・効果

パトロールや定期清掃活動により、防犯や町の美化に対する住民意識が高まった。



青色回転灯防犯パトロール車による日常防犯活動



【大宝学区】

■世帯数：3,815 世帯

■人 口：8,114 人

■面 積：0.899 km²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・「自分たちのまちは自分たちで守ろう」を合言葉に犯罪、事故被害の未然防止を目的に青色回転灯を点けたパトロール車で学区内の危険箇所や不審人物・不審者の点検、地域住民への声かけ、防犯指導などを行う。
- ・パトロール車は乗る人を問わず、より多くの地域住民に運転・パトロールしてもらうことで安全への関心を高め、「連帯感」を醸成する。
- ・平成 23 年度の運行回数は 320 回（月平均 27 回）、18 団体が安定的に参加し、パトロール運行距離は延べ 2,800km。

【住民への PR 方法】

学区広報誌への掲載、団体・町内会での口こみ勧誘

【アピールポイント】

パトロール時に拡声器で放送する文章を学区発案でテープ録音して作った。また、導入後間もなく大宝小学校の朝礼で説明会を開催できた。

危険箇所の発見、点検の機会が増えたほか、団体間の連絡の機会にもなる。大宝小学校 PTA の参加により世代間の対話ができるなど、パトロール車の運行の中で、忘れかけていた人情が生で感じられるようになった。

2 きっかけ、背景

全国的に犯罪件数が増加傾向にある中、常駐交番が減少し、地域の防犯拠点が少なくなっていた。また、地域・ご近所への無関心から自主防犯意識も薄れていた。平成 17 年度に入り、熱田区防犯協会の誘いを受けて学区で検討し、様々な問題はあったが、自主防犯システム構築のチャンスと捉え青色回転灯防犯パトロール車を導入し、パトロールを実施することとした。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、
民生委員児童委員、保健委員、PTA、
女性会、老人クラブ、更生保護女性
会、各種地域団体長、小学校教頭

計約 24 人

(2) 他団体との協力

保健委員会、民生委員児童委員会、
老人クラブ、女性会、PTA、更生保
護女性会、少年補導委員、ボランテ
ィア団体

(3) 運営協力

パトロールの担当者を長期にわたり
固定しない。運行責任の単位を個
人ではなく町内会・各種団体等のチ
ームとし、安心して参加できる工夫
をしている。

4 実施のスケジュール

H17 年 四日市市・岡崎市の事例を受けて熱
3 月～5 月 田区防犯協会より青パト参加の提案

6 月、8 月 6 月までに参加表明、8 月に実施者
講習会開催（23 人参加）

7 月～ 「学区自主防犯パトカー取扱規定」
H18 年 1 月 の作成「学区連協の規約」を検討し
一部改訂、車両登録

1 月 青色回転灯パトロール車申請・関係
手続

2 月 熱田区 4 学区一斉出発式（熱田文化小
劇場）

1 月～3 月 分担計画作成、12 町内を 4 班に分け
て鍵を共有。3 月に月間 13 回運行
でスタート

7 月、8 月 7 月実施者追加講習会（44 人参加）
8 月 15 団体での実施計画が完成

5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・ 犯罪の減少に寄与しているほか、住民による「自主防犯」の実施により子ども
の防犯意識向上に役立っている。
- ・ 柔軟な活動体制の構築により、青パト運行参加への抵抗感が減った。

(2) 苦労した点

- ・ 参加者の確保に苦慮したが、各種団体毎の活動項目に掲げてもらい実績報告
にも役立てると説得したほか、パトロール実行中に前向きな話題をすることで
その後の参加に協力的になる。

(3) 今後の課題・展望

- ・ 活動の継続と資金の確保が課題。学区連絡協議会の年間事業運営費の中で占
める割合の高い項目となっている。
- ・ マンネリ化の排除とそのための工夫が必要と考えている。

(4) メッセージ・アドバイス

- ・ 月当たりの曜日、回数、チーム毎のクルー人数、担当者数を固定しないこと
が重要。（ただし月次計画書作成には配慮を要する）。
- ・ 車両管理・駐車場・集合場所などのルールをしっかりと決めておくことが重
要。
- ・ 町内会、各種団体ごとに曜日や回数などの希望を聞き、調整することが重要。